

(別記様式)

令和4年度 府立朱雀高等学校（定時制課程） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○「自ら学び」「自ら律し」「自ら鍛える」習慣や態度を養い、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指す。</p> <p>○生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。</p>	<p>(成果)</p> <p>○進級・卒業率約90%、就職内定率100%</p> <p>○特別支援が必要な生徒に対するきめ細やかな学習支援や進路相談による進路実現を達成した。</p> <p>○コロナ禍の中で学校行事・生徒会活動を工夫して充実した内容で実施した。</p> <p>○まなび・生活アドバイザー及びSCをはじめ、福祉・行政との連携による生徒・家庭支援 (課題)</p> <p>○学習習慣を定着させるための具体的な方策。</p> <p>○ICTを活用した授業展開や連絡方法の確立。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「わかる」授業の更なる研究をすすめ、「できる」授業を実践し、自ら学ぶ姿勢を養う。</li> <li>2 基礎学力の定着並びに進級・卒業から進路実現につながる学力の向上を図る。</li> <li>3 基本的な生活習慣を確立させ、健康な心と体を育む教育を進めるとともに、他者への思いやりの心を育み、仲間意識を醸成させる。</li> <li>4 学習習慣が定着していない生徒に向けて、補充授業を行い、学習習慣の定着を図る。</li> <li>5 特別な支援が必要な生徒に対して、一人ひとりに合った学習支援、就労支援の更なる充実を図る。</li> <li>6 「1人1台学習用端末購入」に合わせて、ICTを活用した授業や連絡方法の確立を図る。</li> <li>7 校種間連携を適切に行うとともに、福祉、行政とも連携を密に図り、支援を要する家庭の支援を行う。</li> <li>8 あらゆる教育活動において安心・安全な学校づくりを行うとともに、地域に信頼される学校づくりを行う。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	◇学校経営目標の達成に向けた取組体制を確立する。	<p>◆学校経営計画に基づき、各分掌、各教科が目標を意識した教育活動を進める。</p> <p>◆学校運営協議会の評価を受け、現在の課題を明確にし、改善に努める。</p>	B B	<p>○学校経営計画を踏まえ、各分掌がそれぞれ担当する分野での基本方針を明確にし、計画的に教育活動を行うことで学校全体の目標達成に努めた。</p> <p>○各分掌の目標達成及び見直しのために8月末に教職員研修会を開催し、現状の課題と成果について教職員全体で共通理解を図り、年度後半に向けての指導に役立てた。</p> <p>○教員の事務作業を支援するICT支援員を効果的に活用した。</p> <p>○各種会議の趣旨に応じて定期的・計画的に開催した。また、より効果的な体制づくりに向けて、年度末に研修会（総括会議）を開催し、今年度の各分掌の取組等の点検・評価を行った。</p>
	◇教職員の組織体制を機能的にし、活性化させる。	<p>◆教職員間の連携を密にし、共通認識のもと教育活動を展開させる。</p> <p>◆各分掌の目標達成のため、年度の中間期と年度末に研修会等を通じて課題を確認し、進行管理を行う。</p>	B B	
	◇各種会議を機能的・効率的に実施する体制をつくる。	<p>◆各種会議を趣旨に応じて定期的・計画的に行い機能を充実させる。</p> <p>◆会議等について点検をし、課題解決に努める。</p>	B B	

<p>家庭・地域社会との連携</p>	<p>◇学校運営協議会等外部の評価・意見を真摯に受け止め、さらなる学校経営の改善を図る。</p>	<p>◆保護者・地域との連携を強めるとともに、外部評価を取り入れる。 ◆PTA活動を充実させ、家庭との連携を強める。</p>	<p>B</p>	<p></p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>○学校運営協議会の意見をこれからの学校運営に活かすべく各担当とともに学校運営の改善に取り組んだ。 ○生徒の応援団としてのPTAの役割を果たすべく、生徒とPTA役員との会話や活動の機会を作った。 ○OPTA総会を3年ぶりに集合形態で実施した。 ○鳥羽高校定時制PTAとも連携し、本校PTA行事に参加してもらい、互いに意見交換した。</p>
<p>教育課程</p>	<p>◇特色ある教育課程を編成する。  ◇学習活動と特別活動の適正な時間を保障し、充実した学校生活が送れる行事計画を立案し、実施する。</p>	<p>◆単位制の特徴を活かした創意と工夫のある教育課程を編成する。三卒コースの教科・科目を精選する。 ◆生徒の学習意欲を高めるために選択科目の保障に努める。 ◆生徒の実態に即した適正かつ有意な行事計画の作成に努める。 ◆授業時間を確保するための方策について検討する。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>○令和5年度入学生向け教育課程を作成。その方針、特徴としては従来からの本校教育基本方針に従った。具体的には①1年次での国語、数学、英語での少人数並びに習熟度別講座編成、②3年卒業を目指す生徒のための科目設定、③3～4年次に於いて様々な進路希望実現のための選択科目の設定である。</p>
<p>学習指導</p>	<p>◇個に応じた指導の充実により、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>◆習熟度別授業や少人数授業を実施し、基礎学力の底上げを図る。今年度も引き続き実現できた1年国語の少人数講座を次年度も継続できるよう努力する。 ◆学習の遅れがちな生徒に対する補充指導を定期考査ごとに実施し、かつできる限り日常的にも実施する。 ◆特別支援教育の実施に伴い、さまざまな課題を抱えた生徒に対し、学習指導のあり方等について対策を講じる。特別支援を要すると考えられる生徒への補習を、今年度も引き続き継続し、全校体制で進めていく。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>○1年次における国語での少人数講座、数学と英語に於ける習熟度別講座編成を継続した。 ○2年次において数学と英語における習熟度別講座編成を継続した。 ○一学期から二学期にかけて、定期考査直前に短縮校時を設定し、テスト前補習を実施した。 ○特別支援教育を補完するための補習について、今年度の1年生を対象として実施した。目的の重要性を尊重し、次年度以降も取り組みを継続したい。 ○成人生徒や健康上の課題を持つ生徒に対する特別な講座設定を継続し無理の無い学校生活の保障に努めた。 ○今年度も二学期後半に公開授業週間を設定し、教員間での指導経験と方法</p>

	◇教科の指導力の向上により、楽しくわかりやすい授業を追求する。	<p>◆教科会議を充実させ、指導内容や指導方法についての研究協議を行う。</p> <p>◆研究授業や公開授業の取り組みを通して、教科指導の充実を図る。</p> <p>◆授業で図書館を活用するとともに、生徒の読書習慣を身につけさせる。</p> <p>◆授業でのICTの活用のため、研修等を充実させるとともに、施設・設備の拡充とその活用を図る。</p>	B		<p>の交流の機会を保障した。</p> <p>○図書館では教材研究・授業支援のための資料提供を行い、家庭科、国語科、保健体育科の他、総合的な探究の時間でも図書館が利用された。また、教員の推薦図書紹介冊子「まずは一冊」や図書館便りの配布、コーナー展示等に加えて、選書会を行うなど生徒の希望に応える選書を心がけ、読書への関心を喚起するよう努めた。</p> <p>○今年度は、1年生にタブレットが導入され、ICTを活用した授業が展開された。また、年数回の研修を実施した。</p>
生徒指導 特別活動	◇安全で安心して過ごせる学校づくりを推進する。	◆問題事象や問題行動の未然防止と早期発見・早期対応ができるよう一致した指導体制づくりを進め、適切な指導を行う。	B	B	<p>(成果)</p> <p>○問題事象が起きた際に、生徒指導部一体となって対応に当たることができた。また、各分掌と連携し、組織的対応に努めた。</p> <p>(課題)</p> <p>○各分掌との綿密な連携や教職員への情報発信の在り方をより工夫したい。</p>
	◇自主的な集団活動を通して、学校生活を充実させ、諸課題の改善や解決に主体的に取り組めるようにする。	◆生徒会活動や学校行事、部活動をとおして仲間意識を育て、達成感のある学校生活を送れるよう計画的に指導援助する。	B	B	<p>(成果)</p> <p>○学校行事や生徒会活動について、生徒の自主性を尊重しつつ、取組を工夫することでコロナ禍以前とほぼ同じ内容で実施することができ、仲間意識を育てるとともに達成感を味わわせることができた。</p>
進路指導	◇自分の能力・適性を正しく理解して、適切な進路を選択できるように指導する。	◆各種進路説明会を実施する。就労調査や進路希望調査・面談等で生徒の状況を把握し、きめ細かい指導に努める。また、特別な支援を必要とする生徒の進路について各分掌・担任、保護者、関係機関と連携してすすめていく。	B	B	<p>○職業安定機関、若手社会人、企業経営者を講師に迎え、実践的な就職指導に努めた。また、基礎学力・適性検査対策補習を実施した。</p> <p>○就労調査・進路希望調査を複数回実施。進路学習、進路補習などの集団指</p>

	◇勉学と就労の両立を援助する。	◆生徒の現状に合わせて就労を勧め、生活リズムを適切に整えることができるように指導する。定時制生徒に理解のある就労先を開拓する。	B	B	B	<p>導も感染対策予防をしつつ行った。卒業予定者は、進学・就職ともにおおむね希望進路を実現することができたが、家庭事情により進路を変更した生徒もいた。</p> <p>○安易な離職防止のため、就職内定者の指導を複数回行った。昨年度の学校紹介就職者は、離職相談があったが、事業所と協力し、離職を防ぐことができた。</p>
	◇進路希望の実現に結びつく学力を涵養する。	◆進学補習や就職補習を実施し、学力の向上に努める。	B	B		
	◇勤労意欲を育むとともに、労働関連法の基礎を理解させる。	◆就労相談や人権学習、就職内定者説明会等を通して、働く者の権利や義務について指導する。	B	B		
	◇早期離職の防止に力を注ぐ。	◆定期的な連絡、職場訪問を行う。企業との連携に努める。	B	B		
健康・安全 教育	◇健康で安全な生活を送れるように、生徒の実態に即した保健指導と環境衛生管理に取り組む。	◆健康診断を全員受けるように指導し、その結果を基に保健指導を進める。 ◆安全点検を学校薬剤師と連携して学習環境の改善を図る。	B	B	B	<p>○全生徒に対し健康診断を実施することができた。今後事後指導を充実したものにしていきたい。</p> <p>○学校薬剤師と連携し、学校環境衛生検査を計画どおりに実施することができた。</p> <p>○学期に2回「全校清掃・安全点検」を実施し、全教職員の協力により生徒たちに一生懸命取り組ませることができた。安全点検表を全クラスから回収でき、指摘された箇所の改善点を把握できた。</p> <p>○薬物乱用防止教室を「京都府警察本部少年課」に依頼し、生徒指導部と連携して1学期に実施することができた。</p> <p>○現代的健康課題に関する問題において、保健室での個別指導だけでなく教科と連携することで、課題に取り組むことができた。</p> <p>○新入生への給食説明会を行うとともに、1年間通じて給食時に喫食指導を行った。毎月給食会議を開き給食メニューの改善に努めた。今年度から1年生は20回分全員給食を摂ることを勧めた。1学期11人(15人中)→2学期8人(15人中)と少し減ったが当初の目的を達成することができた。</p>
	◇定時制生徒の健康課題に応じた保健学習を進める。	◆薬物乱用防止学習を一年生対象に、学年・教科・分掌と連携しながら取り組む。 ◆性感染症、性教育、依存、デートDV等、生徒の課題に応じた保健学習や保健指導方針を計画する。	B	B	B	
	◇「食」に関して、望ましい食習慣の形成などについて指導を行う。	◆学校給食の場面や、保健指導をとおして食に関する取組を行う。 ◆「学校の新しい生活様式」に基づいた指導を行う。	B	B	B	
	◇心理的・精神的な原因や家庭環境等で学校生活に支障をきたしている特別の援助を必要とする生徒に対して、全教職員で情報を共有し個に応じた適切な指導を行う。	◆分掌・教科間の連携を密にし、生徒の状況を正確に把握するとともに、スクールカウンセラーや外部の関係機関と連絡をとりあって、より適切な指導を行う。	B	B	B	
	◇特別支援教育について、教職員全体の共通理解を図る。	◆他校の実践例や専門家から学びつつ、分掌・教科間の連携を取って適切な指導のあり方を検討し、可能な部分から実践していく。	B	B	B	

					<p>○全教職員と連携し感染防止対策を行うことで、校内での感染を防ぐことに努めた。また、体調不良等の生徒については担任と連携し対応できた。</p> <p>○スクールカウンセラーや、まなび・生活アドバイザーと連携した。具体的な支援等については、必要に応じて外部専門機関と連携しながら心身や福祉への支援に取り組んだことで一定の成果がみられた。</p> <p>○特別支援教育に関して、専門家の講演に参加したり、地域支援センターやわたの巡回相談を活用したり、分掌・教科と連携しながら支援と指導を行った。よりよい支援に向けて更に方策を深めていきたい。</p>	
人権教育	◇さまざまな人権問題について正しく理解し、その解決に向け実践する態度を育む。	◆担任団と人権教育担当及びHR運営会議において、内容の精選などを十分に協議し地域や本校の実態を考慮した人権教育を実践する。	B	B	B	○本年度はネット社会の人権問題について考えるための京都府警サイバー犯罪対策課のネット安心アドバイザーによる講演を聞いた。
	◇学校生活における身近な人権に対する意識を高め、自他を尊重する豊かな感性を育む。	◆すべての教育活動を通して、人権を尊重する心を育む。	B	B		○すべての活動において、学校全体が人権意識をもって指導にあたるよう留意した。
	◇課題を持った生徒の学習状況を把握し、すべての生徒のさまざまな課題に配慮して学習環境を整備する。	◆生徒一人ひとりの人権意識の成長を大切に教育を実践する。同時に、生徒が学校生活の主人公として、自ら学ぶ権利を自覚し、相互の権利を尊重しあえるように促す。	B		B	○1年間通して実施される人権教育関係会議、研修会に参加した。教職員の人権研修は、学校全体で生徒に関わる人権問題全般について学んだ。
		◆課題を持った生徒の学習状況を把握し、担任や教科担当と連携をとりながら学力の向上に努める。	B		B	
		◆教職員の研修、研究会への参加を促す。	B		B	
学習環境・安全管理	◇施設・設備の安全管理の徹底を図る。	◆一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施し、問題箇所があれば速やかに対策を講じる。	B	B	B	○衛生委員会による校内点検を行い、施設・設備で改善を必要とするところは、学校として取り組むよう意見を出し合い、改善可能なところは改善された。
		◆校内巡視を随時行い、校内の安全管理に努める。	B		B	

	◇学校の危機管理について、日頃から教職員の意識を高める。	◆学校の危機管理マニュアルをもとに、全教職員がその内容について理解を深め、防災訓練をより充実させる。 ◆不審者の侵入を未然に防止するため、関係諸機関との連携を図る。	B	B	○放課後に当番制で教室点検を行い、安全管理に努めた。 ○防災訓練については、実施できたが、消防署との日程調整がつかず、実施後の助言等を受けることができなかった。 ○不審者対応については、教員マニュアルを見直し、全教職員に周知した。
情報・ 文書管理	◇文書事務の適正化を図る。	◆文書起案から施行まで文書事務を適切に行う。 ◆事務職員等との適切な連携の下、規定に基づいて適切に文書の整理、保管等を行う。	B	B	○文書起案・回議の方法等について、教職員に対し管理職から確認・アドバイスをを行った。 ○職員の情報共有において、ICTの効果的な活用を進めた。 ○メール、校内サーバーを活用し、各教職員がデジタルデータを利用し、業務の迅速化、ペーパーレスに向けての足掛かりを作った。 ○「個人情報の保護に関するガイドライン」を踏まえ、職員会議等で常にコンプライアンスに触れ、データの適切な管理を行った。
	◇通知・通達文書等の周知と各種情報の共有化を図る。	◆通知・通達等関係機関から送られてくる文書について、関係各所にメール等を駆使し、速やかに伝達、文書遅滞が起こらないようする。 ◆校内外で得られた必要な情報を整理し、教職員に伝達、周知するとともに、理解・活用されるように行う。	B	B	
	◇学校のICT化を進めるとともに、個人情報の適切な管理を徹底する。	◆個人情報等について適切な管理を行う。	B	B	
		◆研修などを通じ ICT に関する正しい知識の習得と実践を行う。	B	B	

学校運営協議会による評価	夜間定時制においては、生徒数は減少傾向にあるが、少人数教育の利点を活かし、生徒に寄り添った指導ができていると聞いている。生徒の満足度も高い。また、高齢の生徒をはじめ様々な生徒が卒業しており、定時制教育の意義を感じる。全日制から定時制への進路変更や学びなおしは否定的にとらえる必要はない。いつでも学べることを知ることが大切。その意味においても定時制高校が果たす役割は大きいと考える。
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	多様な年齢、入学動機、学習経験を持つ生徒が入学してきており、学習に対するニーズも様々である。様々なニーズに応えるため、一人一人の生徒を大切に、丁寧できめ細やかな指導、生徒に寄り添った指導が求められている。夜間定時制に居場所を求める生徒に対して心身のケアをするとともに、BYODなどの学習環境をさらに整備し、それぞれの生徒たちが自立し、成長する場となるよう今まで以上に工夫をする必要がある。
---------------	--